

2019 年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書 提出用

公益財団法人 橋本財団  
理事長 橋本 俊明 様

2020 年 5 月 28 日

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじん とうびこどもえぬびーおーせんたー			
団体名	特定非営利活動法人 東備子どもエヌピーオーセンター			
代表者名	役職名	代表理事	氏名	金本 明子
連絡先	住所	岡山県備前市西片上 1277-1		
	TEL	0869-92-4576		
	E-mail	info@leaf.toubikids.com		
	URL	http://leaf.toubikids.com/		
設立年（西暦）	1991 年			
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援</li> <li>・地域支援</li> <li>・</li> </ul>			
活動の対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全世代</li> </ul>			
助成活動名	「あなたの力をまちに！備前支え合い事業」			
助成額	1,000,000 円			
実施内容	目的	<p>高齢者のみの世帯・共働き家庭やシングル家庭の増加、家族・住民同士のつながりの希薄化により、孤立する家庭が増え、地域力も低下している。その中で高齢者や子どもの日常生活(衣・食・住・移動)に困難が生じているが、公的支援が不足している。また、子育てや介護などの枠組みを超えた問題・悩みを抱える人が増えており、精神的にも肉体的にも大きな負担となっているが、複合的・総合的な相談窓口がなく、縦割り行政の中で情報提供やサポートを受けられない。そのような人達を柔軟に支える地域における支え合いネットワーク・システムを整備・拡充することで、住みやすいまち、住み続けたいまちをつくる。</p> <p>また支え合いによるネットワークを活かし、地域・住民主体の日常的な防災への取り組みや非常時に向けた地域の防災ネットワーク形成を啓発する。</p>		
	内容	<p><u>I. 支え合い活動の拡充</u> 活動時期：通年 活動場所：備前市及び周辺。拠点：備前市西片上</p> <p>①支え合い活動 概要：会員制・有償ボランティアによる柔軟なサービス提供を行った。 主な活動：家事支援、外出支援、産前産後サポート、事務手続代行など。 活動数：延べ約 600 件 参加人数：延べ約 1131 名。</p> <p>②相談対応(メール、電話、事務所での対応) 概要：関係各所と連携し、出産・子育てから介護まで、複合的・総合的な相談に対応した。 対応数：延べ約 1800 件。</p>		

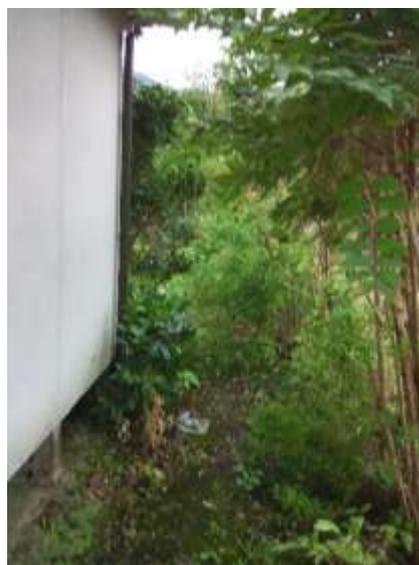
	<p>③空き家・留守宅管理サポート  概要：空き家や留守宅の点検、郵便物の管理、庭の手入れなどを行い、依頼者に報告を行った。  活動数：延べ 50 件</p> <p><u>II. 民間防災ネットワーク整備と生活防災の推進のための円卓会議（タウンミーティング）</u></p> <p>概要：講演(災害時のボランティアや市民の活動について)、  災害シミュレーションゲーム(ダイレクトロード、クロスロード)  対象者：市民、市内 NPO・団体スタッフなど  参加人数：32 名  開催場所：備前市市民センター</p>
成果	<p>地域の多様な力を引き出し活かして支え合うネットワーク・システムを拡充し、多様で複合的・総合的な課題に柔軟に対応することができた。また、ネットワークを生かして行政・他団体などに繋ぎ、支援を受けるサポートを行ったり、ネットワークを組んでことで、ワンストップに近い形での相談対応ができた。地域生活の不安や困りごとの解消ができただけでなく、つながりや活躍できる場をつくることにも繋がり、やりがいや生きがいも生まれている。</p> <p>円卓会議のシミュレーションゲームでは、災害時の状況やどうするかを具体的に・実践的に考えたり、協力しあったりしたことで、防災への意識・知識をうまく高めることができた。参加者からも非常に好評だった。</p> <p>2020 年に入ってから新型コロナウイルス感染症の拡大で帰省が難しくなった人からの実家の管理や家族の状況把握などの相談に対応し、安心感に繋げることができた。また、一人暮らしの高齢会員などに電話をかけ、体調や生活状況の確認、困ったことはないかななどの聞き取り、情報提供をし、孤立・不安の解消に努めた。</p> <p>総じて、つながりあい、安心して豊かに地域生活を送ることのできる環境の整備ができた。</p>
今後の課題と対応策	<p>システムを維持・発展させていくため、よりきめ細やかな支援体制を作っていくために、コーディネーターをはじめとした運営スタッフの人件費確保が第一の課題。様々な助成金の活用やソーシャルビジネスも行いながら、多様な世代が参加・利用できる支え合い事業として行政からの委託が受けられるよう取り組んでいきたい。</p> <p>また、ファミリーサポートなどに比べて利用者負担が大きく、特に若い世代が利用できないことが多い。妊産婦支援やシングル家庭の支援の一環として、利用者への公的援助を働きかけていきたい。</p>
参加者・利用者の感想など	<p>◎円卓会議  シミュレーションゲームでは、時間に余裕がなく焦った。  混乱した状況の中での情報収集やコミュニケーションが難しかった。</p> <p>◎支え合い事業  週に一日、留守宅の確認に入ってもらって安心している。庭木の剪定や防虫剤・草枯らし剤の散布など、細やかな配慮にも感謝している。</p>

円卓会議 09.29 講師発表、ワークショップ



写真の提出

留守宅・庭木剪定 (前)



(後)

